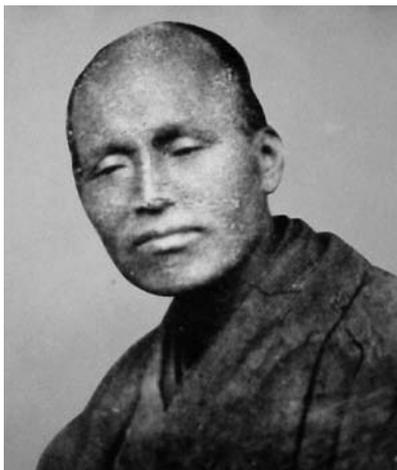


みわだ べいざん 三輪田 米山 (1821~1908)



書家。神官。久米郡鷹子村(現、松山市)出身。日尾八幡神社の神官の家に生まれる。本名は常貞。神官の仕事しながら書を研究する。隠居した時、自社の注連石と神名石を書き、名声を不動のものとした。以後、石碑のための揮毫の注文が次々と寄せられ、松山近郊に数多くの石碑が建てられる。その書の特徴は型破りともいえる自由な造形と気宇壮大な空間感覚にある。豪放無欲な性格で「酒を好み、斗酒なお辞せず、酒至って後、筆をとった」と言われる。

略歴

- 文政4(1821)年1月10日 久米郡南久米村に鎮座する日尾八幡神社の、神官の家(家は鷹子村)に生まれる。
- 文政6(1823)年10月 弟・高房生まれる。
- 文政11(1828)年6月 弟・元綱生まれる。
- 嘉永元(1848)年4月 父の死去に伴い、家職の神官を継ぐ。
- 嘉永3(1850)年7月 国学者・野之口隆正に入門し「常貞」の名を受ける。
- 嘉永4(1851)年3月 日下伯巖と対面する。
- 文久2(1862)年2月 久米の道標「みきへんろ道」を書く。
- 明治4(1871)年10月 松山県より日尾八幡大神の祠官に任ぜられる。
- 明治13(1880)年10月 隠居届を提出。日尾社注連石「鳥舞 魚躍」(10月)、同神名石「県社日尾八幡大神」(12月)を書く。
- 以後、明治15(1882)年に伊予豆比古命神社(松山市居相)注連石「龍游 鳳舞」、明治18(1885)年に巖島神社(松山市神田町)「年豊 人楽」など、多くの石碑の字を書く。
- 明治41(1908)年11月3日 88歳で永眠。墓所は松山市鷹子町の浄土寺

〈関連図書〉

- ・三宅武夫『墨美 三輪田米山 通巻131号』 墨美社 1963年
- ・坪内龍泉『墨美 米山石文 通巻133号』 墨美社 1963年
- ・谷川徹三他『墨美 収集家・山本発次郎通巻158号』 墨美社 1966年
- ・浅海蘇山『米山 人と書』 墨美社 1966年
- ・『墨美 米山臨十七帖 通巻193号』 墨美社 1969年
- ・『書道グラフ 特集-三輪田米山拓本集通巻222号』 近代書道研究所 1974年
- ・『墨 特集-三輪田米山 通巻51号』 芸術新聞社 1984年
- ・高市俊次『瓢壺の夢』 新人物往来社 1987年
- ・『三輪田米山名作展』 愛媛県立美術館 1990年
- ・横田無縫他『三輪田米山遊遊』 木耳社 1994年
- ・『三輪田米山石文展』 愛媛県立美術館 1996年
- ・『発掘えひめ人-近代を拓いた101人-』 愛媛新聞社 2002年

〈主な収蔵資料〉…(P213, 81)

〈ゆかりのある場所〉…(P292~293, 116~117)